



議会だより

No. 145

令和6年10月24日

松崎

よい きら
「宵に煌めく伊那下神社」



議会だより、定例会一般質問動画は松崎町議会ホームページでも視聴可能です。



the most beautiful
villages
in japan

松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

《主な内容》

第3回定例会 (9月3日～9月5日)

令和5年度決算審議	2
令和6年度補正予算	4
視察研修・広報研修会・特別委員会	7
町政を問う 一般質問に6議員	8

令和6年第3回定例会

令和6年第3回定例会が、9月3日から5日までの3日間で開催されました。
町からは報告2件、条例3件、補正予算5件、令和5年度決算認定4件、その他5件の議案が提出され、慎重な審議を行いました。

令和5年度 一般会計 決算審議

歳入総額は42億6057万9千円、歳出総額は40億5505万1千円、翌年度へ繰り越すべき財源は5561万7千円で、実質収支額は1億4991万1千円の黒字決算となった。

歳入

問 地方消費税交付金の社会保障財源分はどのように割り当てられているのか。
答 総務課長 消費税引き上げ分の財源が、町の予算の社会福祉費、保健衛生費などに充当されている。

問 適正な起債をするために、公債比率などを考慮してシミュレーションをしているのか。
答 総務課長 現在、財政シミュレーションは作成していないが、令和6年度は大型事業もある中で、作成を考えている。

問 コンビニなどでの住民票などの発行にかかる事務委託料があるが、何件の実績があったのか。
答 窓口税務課長 485件の発行があった。年間、業務システム使用料など205万円ほどを支出している。

問 町税が6億円の決算となっているが、収納率が対前年比0.02%減となっている。令和4年度も減であった。収納対策はどのように行っているのか。
答 窓口税務課長 未納者へ督促状、催告書を送付し、財産調査、差し押さえも実施している。

問 TOKA-10の補助金の関係で令和5年度の実績は。補強工事是自己資金の関係もあり少ないと思うが、来年が補助最後ということ、どのような対応をしているか。
答 産業建設課長 令和5年度は、耐震診断7件、補強工事1件を助成した。改修工事の取り組みまでいかない方へ、町と県で訪問調査をしている。

問 買い物等支援事業の金額が年々増加している。値上げや乗り合いタクシーの活用の検討はしているのか。
答 健康福祉課長 福祉タクシー・買い物支援・バス乗車券の補助事業があるので、これらの利用状況を見て統合する検討もしている。乗り合いタクシーは、現在予定していない。

問 利子及び配当金で収入があるが、町の基金はどのように管理しているのか。
答 会計管理者 令和5年度は全て定期預金で管理していたが、令和6年度は、定期以外で1億円

問 ふるさと応援寄附金の関係で、まだ導入されていない現地決済型やQRコード決済を活用した取り組みはどう考えているのか。
答 町長 やりたいが、進んでいない現状である。企業版ふるさと納税も含め営業活動はしている中で、できるだけ速やかな対応を目指していく。



第3回定例会 議場の様子

歳出

問 聖和保育園通園費補助金があるが、通園バス利用負担金が、松崎幼稚園の利用者と違っている理由は。

答 健康福祉課長 園児を送迎する箇所が、聖和保育園の方が細かく設定していることや、幼稚園の統廃合を背景に料金設定がされた経過などの理由が考えられる。

問 前年度より増加している移住定住業務の実施内容は。また、その効果はどのようなものであったか。

答 企画観光課長 移住相談会やポータルサイト・SNS・YouTube動画による情報発信を行った。この情報発信は、市町村振興協会の助成を受けた。そのほか、移住定住促進協議会では月2回の定例会も行った。令和5年度の移住者は少なかったが、実態としては、住所を移さない方や2拠点生活する方もいる。

問 下田メディカルセンター負担金を支出しているが、下田市内での救急患者が対応できないケースがあると聞いた。救急医療の受け入れの強化を要望することはできないのか。

答 健康福祉課長 救急の際に医師が不足するケースもある。原則、地域割り当てがあると思う。担当課としても話をするが、下田メディカル議会での要望もしてもらいたい。

問 林業振興費で森林環境譲与税を財源にした森林調査などを実施している。税金に対して執行率が低いという課題があると思うが、対策はどのようになっているか。

答 産業建設課長 令和4年度から1300万円くらい税が来て、執行率は50%ほどである。里山林整備や個人の所有森林をまとめ、町が施業していく森林経営管理制度への取り組みにより、執行

率は上がる見込みである。

問 ごみ減量化対策でコンポストの購入助成をしているが、実績が少ない。1市3町での新焼却場建設を控え、どのような対策を考えているか。

答 生活環境課長 新焼却場では、各市町が10%のごみ減量化をしていることが必要となっている。キエーロなどでの減量化への取り組みを1市3町共同で研究している。

問 旧山田邸の管理運営費はどれくらいかかったのか。どのような使用方で、利用者負担はあるのか。

答 企画観光課長 年間45万円ほどかかっている。夏期はライフセーバーが使い、そのほかは、大学のフィールドワークでも利用されている。利用料は根拠となる条例が未制定のためとっていない。

問 文化財保護費で、令和5年度は白アリ防除業

務を実施したが、町内の多くの有形・無形文化財は観光資源にもなり、地域のコミュニティにとっても重要なものである。今後、洗い出しをして、どう後世につないでいくか、保護についての町の方針はあるのか。

答 町長 観光の目玉は、地域にある歴史・文化・文化財や風習となり、インバウンドに対しても貴重なものとなっている。町には自然もあり、保存活用においては、全国では官民連携していく事例も始めているので、研究していきたい。

問 旧中川小学校校舎の耐震診断業務を実施したが、その結果と今後の具体的な整備はどのように考えているか。

答 総務課長 耐震性はない結果となった。正面側と横側の1階は耐震性がなく、2階の横側だけ耐震性があつた。令和6年度の補正予算で改修のための支援業務を委託していく。

問 海洋センター管理費が2千万円ほど掛かっている。利用者を増やす取り組みはあるのか。

答 教育長 まだ検討段階だが、学校では安全管理人員やプール維持費などが負担になっているため、B&Gのプールを使つて学校の水泳授業を実施できないか考えている。

問 港湾整備など県への負担金を支出しているが、町としての進め方はどのようなものがあるのか。

答 町長 新港湾の活用・振興については、駿河湾フェリー・高速ジェット船・帆船・ヨットなどの寄港を予定している。沼津港と併せ特定地域振興重要港湾となっているので、要望活動もしていきたい。



国民健康保険 特別会計決算

歳入総額は、9億1275万7千円、歳出総額は、9億18万2千円で、歳入歳出差引額は、1257万5千円の黒字決算となった。

歳入では、国民健康保険税が、被保険者の減少などで1億3962万9千円（前年度比5・7％減）となった。

歳出では、保険給付費が、高額療養費や入院医療費の増加などで6億5951万円（前年度比5・0％増）、保健事業費は、生活習慣病重症化予防事業の受診勧奨業務実施などにより、1425万4千円（前年度比23・5％増）となった。

国民健康保険事業基金は、100万円を積み立て、年度末基金保有額が1億4802万7千円となった。

問 出産について、決算

参考資料では2件とあり、決算書では出産育児一時金が1件と違いのある理由は。

答 健康福祉課長 決算参考資料は、診療月ペーシの事業年報の数値を用いているため、決算書の件数と一致しない。

後期高齢者医療 特別会計決算

歳入総額は、1億2625万7千円、歳出総額は、1億2569万5千円、歳入歳出差引額は、56万2千円の黒字決算となった。

歳入では、保険料が8613万7千円（前年度比0・2％増）となった。歳出では、後期高齢者医療広域連合納付金が1億2247万9千円（前年度比1・9％増）となった。



介護保険 特別会計決算

歳入総額は、10億6335万5千円、歳出総額は、9億7243万8千円で、歳入歳出差引額は、9091万7千円の黒字決算となった。

歳入では、保険料が被保険者の減少などにより1億8008万4千円（前年度比1・5％減）となった。

歳出では、要介護認定者の減少などにより、保険給付費が8億5249万3千円（前年度比2・3％減）となった。介護保険介護給付費等支払準備基金は、千円を積み立て、年度末基金保有額が9895万9千円となった。

※要介護認定者は517人（前年度比8人減）。

問 一般介護予防事業費の委託料で280万円ほど不用額があるが、その理由は。

答 健康福祉課長 認知症閉じこもり予防事業を予定していたが、新型コロナウイルスにより開催できなかった。ポッチャ教室は開催することができた。

一般会計 補正予算

補正予算（第3号）の歳入では、緊急地震・津波対策交付金などの県支出金、公共施設整備基金繰入金などの繰入金を増額し、道路補修事業交付金など国庫支出金、公共事業等債など町債を減額した。また、歳出総額に不足する分は、地方交付税を増額した。

歳出では、棚田保全活用事業、隊員報酬の増額に伴う地域おこし協力隊謝礼、旧中川小学校の現況調査や整備内容検討のための町有施設改修支援業務委託、地方公共団体情報システムの標準化に伴うガバメントクラウド環境整備業務委託、住基

ネット関連機器更新業務委託、岩科財産区議会議員選挙費、道路維持や整備に係るミニ油圧ショベル（重機）などの道路管理用備品、感震ブレイカー設置事業費補助金、ブロック塀等耐震改修促進事業、設計変更に伴う新共同調理場建設工事などを増額した。

歳入歳出それぞれに1億1515万9千円増額して補正後の額を46億9671万8千円とした。

問 花の三聖苑の作業棟の合併処理浄化槽工事に伴い、利用者負担はどうなるのか。

答 企画観光課長 作業棟の有効利用と法改正に伴う個人の漬物加工支援に取り組んでいるが、現在は期限を定めて、振興公社と利用者団体の覚書により、光熱水費相当分を徴収する。今後の利用状況により利用料条例の制定を検討していく。

問 イベント実行委員会補助金で岩科重文まつりと雲見海賊料理まつり分が減額になったがその経過は。

答 企画観光課長 岩科地区コミュニティ中心の重文まつり実行委員会、コロナ禍から開催についての協議をしてきたが、廃止の結論となった。雲見は、今年度の開催を中止するもの。

どにより、歳入歳出から113万7千円を減額して、補正後の額を9億5494万1千円とした。

◎後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

保険料の本算定などにより、歳入歳出に499万6千円を増額して、補正後の額を1億4417万円とした。

◎介護保険特別会計補正予算（第1号）

会計年度任用職員の増、前年度の国庫支出金の精算額確定などにより、歳入歳出に8696万2千円を増額して、補正後の額を10億7296万2千円とした。

特別会計

補正予算

◎国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

前年度繰越金の確定な

ては特に苦情はないが、増員により迅速な認定体制をつくっていきたい。

企業会計

補正予算

◎水道事業会計補正予算（第1号）

補正予算の内容は、収益的支出予算において、配水池の緊急遮断弁修繕業務や職員手当により、243万円を増額した。当年度純利益は、244万8千円減の1779万1千円とした。

問 町内で何箇所の配水池の緊急遮断弁を修繕するのか。遮断はどれくらいの地震の大きさでされるのか。

答 生活環境課長 現在、町内7箇所のうち6箇所の修繕が必要となっている。震度5強が起きると配水池の水が漏れないように遮断される。

条例

◎松崎町過疎地域持続的発展特別事業基金条例の制定

過疎対策事業債における過疎地域持続的発展特別事業分は、交通手段の確保、集落の維持など、将来にわたり安全に安心して暮らすことのできる地域社会の実現を図る事業に充当でき、当町では旧施設の除却に活用している。今後の大型施設の除却に活用するための財源確保を図るため、基金条例を制定するもの。

◎松崎町水道事業給水条例の一部改正

令和7年度から水道料金を44%値上げすることに伴う条例改正。

問 44%の改定はかなりのものと思うが、町の生活経済対策で激変緩和の対策はないのか。

答 生活環境課長 生活経済対策ではないが、44%の値上げは、一般会計から令和7年度以降11年度までの5年間に、2千万円ずつ繰入れることを前提に試算している。繰入がないと60%の値上げが必要だが、バランスを考慮したもの。

差額を将来の交通手段確保などの実現に向け、積み立てていくことができる。

◎松崎町国民健康保険条例の一部改正

令和6年12月2日から被保険者証が廃止されることに伴う条例改正。

問 雲見入谷地区で白濁解消の要望が出ているが、料金の据え置きなどは考えていないか。

答 生活環境課長 難しい事案ではあるが、料金改定とは別に改善に向けた取り組みを行っていく。

計画

◎松崎町過疎地域持続的発展計画の変更について
過疎対策事業債における過疎地域持続的発展特別事業（いわゆるソフト事業）の毎年度の過疎対策事業債発行限度額の余剰分を基金に積み立てて、後年度事業の財源に充てることを可能とするため、基金条例の制定と併せて過疎計画の所要の変更をしたもの。

人事

◎教育委員会委員の任命
教育委員会委員の松本

一男氏（建久寺）が9月30日をもって任期満了となるため、稲持善彦氏（石部）に任命することについて同意したもの。
任期は、令和6年10月1日から4年間。

損害賠償の額の決定及び和解

◎生活環境課パッカー車事故について
損害賠償の額の決定と相手方と和解をするもの。

意見書採択

◎地震財特法の延長に関する意見書
地震による災害から地域住民の生命と財産の安全を確保するために、対策事業が実施できるよう、令和6年度末に期限を迎える地震財特法の延長を要望したもの。
※可決後、国の関係機関へ送付した。

第3回定例会の賛否状況一覧

議会名	議案番号	件 名	藤井昭一	菜野良枝	高橋良延	田中道源	小林克己	高柳孝博	藤井要	議決状況
第3回定例会	議案第59号	松崎町過疎地域持続的発展特別事業基金条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第60号	松崎町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第61号	松崎町水道事業給水条例の一部を改正する条例について	×	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第62号	令和6年度松崎町一般会計補正予算（第3号）について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第63号	令和6年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第64号	令和6年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第65号	令和6年度松崎町介護保険特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第66号	令和6年度松崎町水道事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第67号	令和5年度松崎町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	認 定
	議案第68号	令和5年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	認 定
	議案第69号	令和5年度松崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	認 定
	議案第70号	令和5年度松崎町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	認 定
	議案第71号	松崎町過疎地域持続的発展計画の変更について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第72号	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	同 意
	議案第73号	損害賠償の額の決定及び和解することについて	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	意見書案第3号	「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の延長に関する意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	発議第2号	松崎町議会基本条例制定特別委員会の設置に関する決議	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

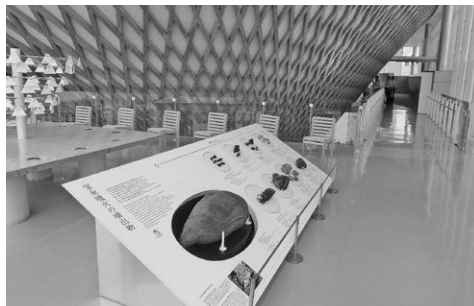
賛成：○ 反対：× 欠席：－

視察研修

7月12日、総務常任委員会は、姉妹都市である静岡県富士宮市を視察し、研修を行った。

富士山世界遺産センター

富士山世界遺産センターは、世界遺産の根拠となる「世界遺産条約（国際条約）」に規定されている、世界遺産を「保護し、保存し、整備し、および将来の世代へ伝えることを確保する」拠点施設であり、学術調査機能などを併せ持つ施設である。



▲県産材を使った特徴的な木格子

富士宮市議会

富士宮市議会では、「議会DXの取組について」と「議会基本条例の制定の経緯などについて」を調査事項として研修を行った。



▲富士宮市議会議員との交流

市議会では、①議員と事務局の連絡調整などが円滑に行えること、②ペーパーレス化を促進できること、③議員がどこにいてもさまざまな資料の閲覧検索が容易となることにより、議案審議の質が向上し審議が深まることが期待できることなどが

ら、タブレット端末などを導入するに至った。



▲市議会で導入したタブレット端末

導入に当たっては、議会が先行してペーパーレス化することについて、市当局の理解を得るのに苦労したという。

令和元年度に導入してから約5年が経った現在、メリットとして、①議員への迅速かつ正確な情報提供が可能、②紙資料が減り情報整理が容易、③事務局の作業量が減少したという反面、デメリットには、①運用費用がかかる、②議員によって操作の熟練度に差があるということであった。

議会広報研修会

9月25日、議会広報編集委員会は、東京都で開催された町村議会広報研修会に参加した。研修会では、行動変容がある広報誌にするためのポイントや、伝わる広報誌のターゲットの設定、目立つレイアウトのコツ、デザインルールのほか、住民参加型の企画と取材などにより、住民が知りたいたいことを発信することの重要性などについて学んだ。

研修会で学んだ知識は、今後の広報誌の発行に生かしていく。



特別委員会

本議会は、9月に開催された松崎町議会第3回定例会において、議員から提出された「松崎町議会基本条例制定特別委員会」の設置に関する決議を全会一致で可決した。

約15年ぶりに設置された特別委員会である「松崎町議会基本条例制定特別委員会」は、議会の在り方や議員の責務など、議会に関する基本的事項を内容とする「議会基本条例（全国の町村議会の約42%で制定されている）」および「議員政治倫理条例」の制定を目的とした委員会である。設置の背景には、議会の役割を最大限に発揮するために、議会運営などをより自主的・自立的に行うためのルール整備を進める必要がある。今後、定期的に委員会を開催し、条例の制定に向けて議論を重ねていく。



老朽化が著しい南区の旧武道館

※フェーズフリー

災害が起きた時のために準備するのではなく、日常的に使っているものを災害時にも役立てるという考え方。



藤井 かなめ
要 議員



答 命を守る耐震強化を優先

問 災害後の復旧計画策定は

問 地震や津波などの大規模災害において、多くの家屋や土地の境界が不明になり、災害復旧の妨げになることが考えられるが、調査は完了したか。

問 田んぼの埋め立てが進み、貯水能力が低下して、線状降水帯や集中豪雨により、住宅などへの浸水が懸念されるが、排水路の管理は問題ないか。

令和2年の調査では、安全面に問題がある家屋が20戸余り確認された。「特定空家等」に認定すれば行政指導ができるが、各課との調整や他の業務を優先していることもあり、あまり進んでいない。

答 (町長) 地籍調査は、津波浸水想定区域から行っており、旧松崎地区はほぼ完了した。今年度から三浦地区の調査に着手していくが、家屋などに関する調査は行っていない。

答 (町長) 河川や水路の土砂堆積にはしゅんせつを行い、流木が詰まってしまうような地下排水溝は、地上排水溝にするなどの対策を行っている。また、水路などは「花の日」などに地域の皆さんにも清掃をお願いしている。

問 災害時の避難所整備は

問 当町に住んでいない空き家・空き地などの所有者と、災害復旧時の事前協議はされているのか。

問 危険な空き家対策は

答 (町長) 旧小学校には当初より網戸がなく、今後も設置の予定はない。エアコンなどの設備がない避難所への対策として、気化式冷風機など12基を整備している。その一方で、フェーズフリー(※)の中で考える必要もある。

答 (町長) 県において、緊急輸送ルートを指定し、道路沿いの建物の耐震診断や補強、耐震化を推進しているが、町では被害を想定した上での事前協議はしていない。

答 総合的見地から対応

問 快適性を高めていく

問 豪雨による浸水対策は

答 (町長) 町内には、管理不十分でいつ倒壊してもおかしくはない危険な家屋が存在している。全国で1501町村が「空家等対策計画」を策定しているが、わが町にはない。計画の策定や対策協議会を設置する予定はないのか。

問 災害時の避難所整備は

答 しゅんせつや地上排水溝で

答 (町長)

問 災害時の避難所整備は

問 総合計画の産業振興は

答 新たな産業振興施策で



高柳 孝博 議員
たかやなぎ たくひろ



問 少子高齢化の傾向が止まらない中、町を後世に引き継ぐための事業についてどう考えるか。子育て世代への現金給付は出生率を上げる施策として必要ではあるが、家族を形成するための経済が良くなる必要があると考える。

人口が減って少数精鋭にならざるを得ない将来世代へ新しい産業を引き継ぐべきではないか。一つは、事業全体の事業評価はどれくらいか。

特に産業振興関連の施策の成果と課題をどう考えるか。二つ目は、地域経済の発展のため、産業の振興策としてのDXの導入と地域コミュニティビジネスを進めるべきではないか。

答 (町長) 令和6年度は、中間の事業評価を実施していないために、進捗度や評価については現在明確な回答はできかねる。産業振興関連の施策は、

観光、農林漁業、商工業、新たな産業の振興の施策の部分になるが、町として事業には取り組んでいるものの、少子高齢化や後継者がいないことによる担い手不足が大きな課題となっており、目標に進みあぐねている状況である。

DXの導入については、松崎町DX推進計画で目指すのは、「テレワークによる場所等の制約を受けない働き方」や「最新技術の導入による効率的な働き方」、「新たな観光サービスの提供」などを目標としている。

地域コミュニティビジネスは、両輪である町民と自治体、行政がしっかりと手を組んで臨んでいく必要がある。

問 まつぎ荘の運営は

答 運営形態の比較で

問 総合計画の中では、「まつぎ荘における民間

活力導入可能性調査を行い、町が民間企業の取組を検討」としているが、今後、債務の返済、設備改修など多く資金を投入しないと運営ができていけないならば、そろそろこのあたりでどの形態が一番いいのか、マトリックス図を作って、このようなメリット・デメリットがあるということを明確にし、経済比較して判断すべきではないか。

答

(町長)

分析のプロであるコンサルも含めて、その部分については素人ではちよつと見えないところもある、そういったところをしっかりと使って、やはり皆さんにどうするか、方向性とか判断を分かるように数字的にも見えるような形を示していきたい。

問 AIを活用した教育は

答 正しい知識で導入を

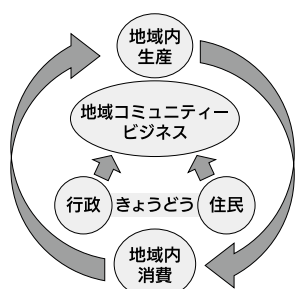
問 AI導入のガイドラインをどう考えるか。AIの答えをチェックする能力、そちらを鍛えることが大事ではないか。

答

(教育長)

暫定的なガイドラインは、対話型文章生成AIの活用の適否を判断するためのもの。まず先生方には研修していただき、リアルとデジタルの調和に留意するなど、正しい知識と使い方を知っていただく必要がある。

その前段として、児童生徒の教科での学習、そこでの読解力、または知識、そして実際に体験をすることを踏まえ、AIの答えを自らの考えで確かめていくことは大事である。



稼げるビジネスの推進

問

DX推進計画の恩恵は

答

行政手続き簡略化など



田中道源 議員



富士市の電子回覧板の画面

問 具体的にはどのような恩恵を想定しているか。

答 (町長)

町や関係団体が情報発信しているSNSから最新の情報が見れることや、スマホでの行政手続き、体育施設の予約、鍵の手続きの簡略化など。

問 スマホで回覧板は

答 町職員の負担増に

問 スマホを通して回覧板を回してはどうか。

答 (企画観光課長)

西伊豆町ではLINEで回覧板を送信している。後で見返すこともでき非常に便利だと感じている。導入に向けて検討しているところであるが、毎週1回の頻度であり、職員の負担増が懸念される。

問 回覧板で町内事業者の商業的な情報を流すことは町としての応援になると考える。町の姿勢が問われることはないか。

答 (町長)

やり方の問題がある。「中小企業及び小規模企業振興基本条例」もあるが、個人事業者のイベントなどの回覧は難しい。

問 デジタル上で町が広告事業を行うことは、工商业者に対する支援になると考えるが。

答 (町長)

今ある公式アカウントの使い勝手や予算の課題がある。さまざまな方法があり、検討をしているところ。

問 今後の公共交通は

答 正解のない状態

問 10月上旬の自動運転などの実証実験はどのようなものか。

答 (町長)

県の取り組みである。全ての走行区間が自動運転ということではなく、地元ボランティアによる運転支援という点が特徴。

問 実証実験後の計画はどのようなものか。

答 (町長)

県は、買い物や通院などのための移動手段確保を目的としたオンデマンドバス、またはNPO主体の実走を想定している。

問 今回の実証実験を通してデジタル決済、AIによる乗車システムなどが導入できるのか。

答 (町長)

技術的には可能だが、自動運転車両の運行だけでも相当の費用がかかる。現状では現実的ではない。

問 事業として継続するに当たっては、地元の公共交通事業者との連携・協力が不可欠だと考えるが。

答 (町長)

地元の公共交通事業者との連携・協力は必要であり、過去の自動運転などの実証実験でも調整をしてきている。この事業に限らず、今後も調整を図っていく。

問

障害者優先調達(※)を考えて

答

今年度以降増やしていきたい



藤井 昭一 議員



問

松崎町の障害者優先調達の金額がここ数年、毎年県内で最低の金額で、令和5年度の実績は1万2千円だった。これについてどう思うか。

答 (町長)

他市町に比べ非常に少ないと感じている。できる限り前年度を大きく上回るよう努力していきたい。

問

地域の障害者就労施設でどのようなことがで

問 避難タワーを早急に

答 できるだけ早く

問 津波避難タワーの整備について、10年前の計画では、平成30年までに町内に3基整備する目標になっていた。今年新たに作成された計画では、町内に3基整備する目標が令和14年までに達成することになっている。南海トラフ巨大地震が今後30年で80%の確率で来るといわれているにもかかわらず、10年前の目標よりもさらに14年も先延ばししている。早急に整備してほしいと思うがどうか。

答 (町長)

2基目の津波避難タワーは現在、南区と協議中で、早ければ令和8年に建設する。3基目の津波避難タワーも、地元からの要望や用地の確保ができれば、なるべく早く整備したいと考えている。

問 温泉の利用促進は

答 10年間新規契約ゼロ

問 温泉の契約者数を増やすような取り組みは何かしているのか。

答 (町長)

温泉デリバリーなど、温泉の魅力を町内外に発信している。

問 このまま契約数がどんどん減少していくとどうなるのか。

答 (企画観光課長)

移住定住促進施策として、魅力ある松崎の温泉の権利を移住者に無償提供できないか。

答 (生活環境課長)

温泉会計の経営が悪化し、料金改定について検討しなければならなくなる。

※「障害者優先調達」について

平成25年に施行された障害者優先調達法では、障害者の経済的な自立を支えるために、国や自治体に対し、物品などの発注先として優先的に障害者施設を選ぶよう努力義務を課している。

＜令和5年度＞

賀茂地域1市5町の障害者施設からの物品などを調達した金額

市 町	金 額 (円)
下 田 市	2,551,230
南 伊 豆 町	1,509,568
東 伊 豆 町	509,678
西 伊 豆 町	244,484
河 津 町	204,390
松 崎 町	12,000

問 社協の人的強化の考えは

答 要望に対し町として検討



菜野良枝 議員



雲見の災害の際に設置された
西伊豆町のトイレトレーラー

協議したい。

問 災害用トイレの備えは

答 平常時の使用も検討

問 トイレトレーラーの導入はできないか。

答 (町長)

トイレ対策の一つとして有効だが、給水やくみ取り、メンテナンスや牽引免許が必要になるなどの課題もあるので、導入を検討するだけでなく、協定やネットワークによる派遣要請などの方法も考える。

問 自己処理型水洗トイレ「トワイレ」の研究・検討の考えはあるか。

答 (町長)

トワイレは、浄化装置でし尿を処理し洗浄水として再利用でき、上下水道がない環境でも水洗トイレの利用が可能で、太陽光パネルと蓄電池により、電源がない状況での運用やトラックでの移動

もできる。防災公園の整備計画もあることから、検討していきたい。

問 簡易トイレの備蓄は。

答 (町長)

仮設トイレ24台、障害者用5台、車椅子用1台、ワンタッチトイレ38個、プラスチックトイレ67個のほか、消耗品を備蓄している

問 男女共同参画の現状は

答 あざれあに協力を依頼

問 女性職員のミーティングの状況は。

答 (町長)

若手職員、子育て中職員、中堅以降職員に分かれ意見を出し合い、問題解決のための具体的な改善案を提出してもらった。

問 講座や研修会の実績はあるか。

答 (町長)

11月に女性防災リーダー育成講座を開催予定。

問

災害時要支援者対策は万全か

答

8年度目途に個別避難計画策定



高橋良延 議員



問 災害時要支援者対策で、何を行っているか。

答 (町長)

家具の固定を行う世帯への助成や木造住宅の無料耐震診断、耐震補強の助成を行っている。

問 災害対策基本法で努力義務となっている避難行動要支援者の個別避難計画策定はいつか。

答 (町長)

避難行動要支援者名簿を作成したが、近年は更

新できていない。

令和8年5月ごろを目

途に策定する必要がある、県の指導や先進自治体を参考に周知し、個別避難計画の強化に取り組む。

問 災害関連死を防ぐための具体策は。

答 (町長)

避難所や仮設住宅の環境整備が重要で、避難所生活に必要な備品を整備しているが、不十分であり、継続して整備したい。

問 災害関連死認定審査会設置が必要ではないか。

答 (町長)

設置について検討していきたい。

問 秋以降の観光振興策は

答 観光クーポンなどで

問 夏の入込状況と結果分析を踏まえた秋以降の観光振興の具体策は何か。

答 (町長)

7月は良かったが、8月は地震や台風接近でキャンセルが増加し、海水浴客も暑すぎて減少した。

秋以降は、松崎まちかど花飾りや観光クーポン事業、登山アプリを活用し、誘客を図りたい。

問 台湾、ベトナム訪問の成果と今後の町としての具体的な取り組みは。

答 (町長)

台湾では国際旅行展で伊豆半島をPRし、ベト

ナムでは日本語学校で、人材派遣の可能性やネットワークを構築した。今後も、賀茂地域や伊豆半島エリアでインバウンドの誘客などに努めたい。

問 昨年度から情報発信力を期待し2千万円かけて、2人の地方創生人材を雇用したが、成果は。

答 (町長)

観光では、河津桜を通じた連携事業「伊豆の極めし」や東海汽船の東京松崎便の受入れイベント、振興公社では町営観光施設の改善や新たなイベン

トで情報発信し、認知度向上に取り組んでいる。

問 協力隊活動の発信を

答 活動発表会を開催

問 町施策と協力隊員の活動の方向合わせの対応、活動内容の発信方法は。

答 (町長)

隊員全員で月1回情報交換を行い、活動内容は広報やSNSで発信しているが、活動が町民に見えないとの声もあるため、発表会を今年度開催する。



松崎町らしい「松崎まちかど花飾り」

次の定例会は、12月3日(火)からの予定です。

議会のうごき

7月

- 12日 総務常任委員会視察研修 (富士宮市)
- 16日 広報編集委員会
- 18日 市町議会議員研修会 (静岡市)
- 25日 議会だより144号発行
- 26日 伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会等
令和6年度合同促進大会 (東京都)
- 31日 賀茂郡町議会議長会議 (東伊豆町)

8月

- 20日 議会全員協議会
下田地区消防組合議会定例会
- 21日 下田メディカルセンター議会定例会
南伊豆地域清掃施設組合議会定例会
- 26日 重要問題懇談会
- 28日 議会運営委員会・広報編集委員会
- 29日 静岡県町村議会議長会決算監査
- 30日 議員会勉強会

9月

- 3日～5日 第3回定例会
- 18日 静岡県町村議会議長会総会 (静岡市)
- 25日 全国町村議会広報研修会 (東京都)

表紙の写真「宵に煌めく伊那下神社」は文化協会写真部より提供。

発行責任者

議長 深澤 守

編集委員長

田中道源

編集委員

藤井昭一
菜野良枝
高橋良延
小林克己
高柳孝博
藤井要



吟漁亭

この人に
聞きました④
古民家「吟漁亭」亭主
片山紗織さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、那賀地区で古民家宿を営む片山さんにお話を伺いました。

○活動の内容について教えてください。

父と伊東直記さんが知り合いで、松崎町に遊びに来たことがきっかけとなって、令和4年に移住しました。フリーでWEB製作を行う傍ら、古民家宿「吟漁亭」を営んでいます。ほぼ1人で運営

していますが、ここでの生活は新鮮でとても楽しいです。松崎には四季それぞれで遊べる場所がありますし、私自身バックパッカーで何十カ国も旅した経験もあるので、地域の人と交流を深めるのが好きなんです。

○課題や今後の活動は。

もっとお客さんに来てもらえるようにしたいのと、私がこの地域で「楽しい」と思ったことを泊まった人にも伝えること

で、松崎のファンを増やしていきたいと思っています。あと、地元の人に向けたイベントもやりたいと思っています。人が集まる場所を作って、地元の人が楽しめる場所にもしていきたいです。

○町への要望は。

移住者にも町の情報がわかりやすいように、書類の電子化やLINEで閲覧ができるようになることがたいです。

(聞き手 編集委員長)

海鳴り

9月議会において、議会の役割を最大限に発揮するために、議会運営などにより自主的・自立的に行うための取り組みを積極的に進める必要があることから、議会の在り方や議員の責務など、議会に関する基本的事項を内容とする議会基本条例および議員倫理条例を制定する「松崎町議会基本条例制定特別委員会」の設置を可決しました。

特別委員会では、SNSや議会だよりなどを通じて情報公開を進め、今以上に開かれた議会を目指し、住民懇談会などを通じて町民の声を聴き、意見を行政に反映させる仕組みや、災害時の議員の在り方などを議論していきたいと思います。

(議長)